

**2022 年度
副市長レビュー（秋）
協議事項一覧**

副市長レビュー（秋）【協議事項一覧】 2部局 2案件

1 市民部文化振興担当

No.	所管課	事項名	方向性の提案	議論する事項	結果
1	スポーツ振興課	浜松アリーナの今後のあり方の検討について	<ul style="list-style-type: none"> ・ PFI手法等の民間活力を活用したリニューアルの実施 ・ プロスポーツとの連携など、プロフィットセンターを意識したアリーナ機能の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2023年度大規模改修基本構想（あり方調査・改修調査・民間活力可能性調査）委託業務の実施の可否 ・ 次期事業者の選定期間確保に向けた指定管理期間の延長の可否 	提案内容を一部見直して進める

2 学校教育部

No.	所管課	事項名	方向性の提案	議論する事項	結果
1	教育総務課	スクールロイヤー制度の導入について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2023年度から、静岡県弁護士会と協定を締結し、スクールロイヤー制度を導入 ・ 学校からの法律相談事業に加え、教職員の危機管理能力等の向上事業を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 弁護士の選定、契約方法 ・ 事業の内容 ・ 導入スケジュール 	提案内容を一部見直して進める

副市長レビュー（秋）協議事項調書

1 部局名 (課名)	市民部 (スポーツ振興課)	
2 協議事項 (案件名)	浜松アリーナの今後のあり方の検討について	
3 背景・現状 (現状把握できる統計数値など)	<ul style="list-style-type: none"> ・浜松アリーナは、1990年9月のオープンから約31年が経過。 ・2015年度中期修繕計画を策定し、段階的に改修を実施しているが計画どおりには進んでいない。 ・研修棟など一部で低利用化が見受けられるとともに、プロチームからは演出効果の高い照明や大型映像装置などの設備が求められている。 ・スタジアムアリーナの全国的な傾向として、特定スポーツ分野の集中化やプロスポーツの拠点としての機能強化など、市民利用を中心とした体育施設とは差別化を図る事例も増えている。 	
4 検討経過・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・市民利用中心の体育施設とは差別化して、プロスポーツの拠点などの機能強化によって稼げる施設とするため、効果的な施設改修等に向けた検討が必要。 ・中期修繕計画に基づき、施設継続のため設備を中心に、本計画を基に緊急性の高い設備について順次、更新を進めているが、新たに修繕が必要な箇所が各所に表面化している。今後、外装・内装の改修時期を迎えており、その前に今後の方向性を定めたい。 ・既存の設備を活かしつつ、アリーナの新たなあり方を明確にするとともに、効果的な機能向上に向けた施設改修が必要。 	
5-1 方向性の提案 (目指すべき姿)	<ul style="list-style-type: none"> ・PFI手法等の民間活力を活用したリニューアルの実施とプロスポーツとの連携などプロフィットセンターを意識したアリーナ機能の強化 	
5-2 上記の方向性決定に向け議論する事項 (妥当性、必要性、有効性など)	<ul style="list-style-type: none"> ① 来年度、大規模改修基本構想（あり方調査・改修調査・民間活力可能性調査）委託業務の実施 7,326千円 ② 事業者選定に要する間の指定管理期間延長※2024～26年度（24ヶ月程度） <p>【スケジュール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2023年度 基本構想策定業務 <ul style="list-style-type: none"> ・浜松アリーナ現状分析及び今後のあり方検討調査業務 ※浜松アリーナ現状調査（中期修繕計画への影響分析、課題の可視化）、先進事例調査（他施設情報の収集、運営手法の整理）、社会ニーズ調査（施設機能、付帯機能等の整理） ●2024～2025年度 アドバイザリー業務 <ul style="list-style-type: none"> ・実施方針策定、要求水準作成、選定委員会設置 ・事業者選定 ●2026年度 <ul style="list-style-type: none"> ・リニューアル実施・運営（10～15年） 	
6 結果	<input type="checkbox"/> 提案どおり進める <input checked="" type="checkbox"/> 提案内容を一部見直して進める <input type="checkbox"/> 再度、調査研究等を行い検討 <input type="checkbox"/> その他	<p>具体的内容</p> <p>市全体の体育館の利用状況を把握した上で、浜松アリーナの現状と今後の望ましい運営方法を整理した結果に基づき、今後の整備方針を検討する。</p>
7 その他		

副市長レビュー（秋）協議事項調書

1 部局名 (課名)	学校教育部 (教育総務課)
2 協議事項 (案件名)	スクールロイヤー制度の導入について
3 背景・現状 (現状把握できる統計数値など)	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校への過剰な要求や対外的なトラブル等に対して、2019年度から庁内弁護士に直接相談できる支援体制を整えているが、近年、学校が抱える問題は複雑化・多様化しており、教育や福祉、子供の権利等の視点を取り入れた助言が求められている。 ・問題やトラブルの未然防止、早期発見・解決には、校長や教員一人一人の危機管理能力や法的思考力の向上が必要となっている。 <p>【他都市の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定都市 15 市がスクールロイヤー制度を導入している。 ・静岡県、静岡市、藤枝市は、静岡県弁護士会と協定を締結し、スクールロイヤーを活用した事業を実施している。 静岡県：2019年7月～ 藤枝市：2021年4月～ 静岡市：2022年9月～ <p>【議会質問等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度第1回総合教育会議でいじめ問題への対応について協議した際、スクールロイヤー制度の導入を求めるご意見をいただいた。 ・本年9月議会で市民クラブの鈴木真人市議から、法的相談体制の充実について質問があり、スクールロイヤー制度の早期導入に向けて取り組んでいくと答弁した。
4 検討経過・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施にあたり、弁護士謝礼・交通費等の経費が必要となる。
5-1 方向性の提案 (目指すべき姿)	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールロイヤーを活用した事業を実施する。 ・事業実施に向けて、県弁護士会と調整を進める。 <p>【学校からの法律相談事業】 ※相談1件につき1時間以内</p> <p>①学校が抱える問題やトラブルの初期対応段階において、学校がとるべき法律上適切な対応について助言等を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学校管理職から直接スクールロイヤーへ相談できるスキームを構築 (教育委員会が相談内容を事前に確認) <p>【教職員の危機管理能力等向上事業】</p> <p>②部会(市立小中学校をエリアで分けたもの。1部会から8部会までである。)が主催する研修等において、地域の具体的な問題や事例に対する法的側面からの指導・助言や危機管理能力や法的思考力、コンプライアンス意識の向上に資する講義を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆部会ごとの担当ロイヤー配置を目指す <p>①+② = 737千円 (2023年度当初予算内示)</p>

<p>5-2 上記の方向性決定に向け議論する事項(妥当性、必要性、有効性など)</p>	<p>・本事業のよりよい運営方法を確立するため、個々の弁護士との委託契約ではなく、事業の実施要領に基づき運用し、随時見直しを図っていく。</p>	
<p>6 結果</p>	<p><input type="checkbox"/>提案どおり進める <input checked="" type="checkbox"/>提案内容を一部見直して進める <input type="checkbox"/>再度、調査研究等を行い検討 <input type="checkbox"/>その他</p>	<p>具体的内容</p> <p>再度、県弁護士会と調整の上、委託契約での実施も含めて検討し、個別協議すること。</p>
<p>7 その他</p>		